

令和3年度

ふじ塚遺跡 発掘たより(3)

今年度も発掘調査を行っています

4月下旬からふじ塚遺跡の調査を開始しました。今年度は8か所の調査を行っています(図1)。昨年度は、遺跡内にあった「ふじ塚古墳」が戦国時代から江戸時代の初め頃の「礫石経塚(れきせききょうづか)」であることが分り、大きな成果がありました。今年度は礫石経塚のまわりを調査しますので、礫石経塚に関連する遺構や遺物の発見が期待されます。

遺跡の西側での調査

⑨区では、北東から南西方向に延びる溝跡が見つかりました(写真1)。溝跡の埋土に入る砂礫の粒と堆積状況から、流路跡と考えられます。埋土からは黒曜石の破片が出土しただけなので、時期は不明です。

⑩区では、トレンチを掘ったところ、西端で土坑が1基見つかりました(写真2)。直径80cmほどで、検出面からの深さは約70cmです。昨年度に調査を行った一の釜遺跡で見つかった縄文時代の土坑と埋土がよく似ています。



図1 ふじ塚遺跡 調査地区

礫石経塚発見地点
(R2年度)



写真1 ⑨区で発見された溝跡の調査風景



写真2 ⑩区のトレンチで発見された土坑

ふじ塚遺跡の整理作業を進めています

今年度4月から、埋文センター（長野市）で昨年度調査した礫石経塚から出土した約40,000点に及ぶ礫石経の整理作業を行っています。

まず礫石経に付着した土を、毛の長い柔らかい刷毛を使って払います（写真3）。礫石経は、筆のようなもので軽く文字が書かれているものが多く、土が付着した状態で初めから水洗いを行うと墨が消えてしまうからです。土を払った後、毛の長い柔らかい刷毛で丁寧に水洗いを行います。今まで洗った礫石経を見ると、全体の約3分の2の石に墨の痕跡が確認されています。これまでの礫石経の研究では、礫石経塚から出土した礫石経のうち文字が書かれているものは2～3割に過ぎないとの見解があるなかで、ふじ塚遺跡の礫石経は文字が書かれている割合が高いことが特徴です。

礫石経（一字一石経）の洗浄を進めていくうちに、石の片面に2～3字が書かれているもの、石の両面に書かれているもの、「南無大日如来」など法華経以外の經典の文字が書かれているもの、多く書かれている文字と少ない文字があることなどが、新たに分かってきました。



写真3 礫石経の水洗い風景



写真4 水洗いした礫石経



写真5 「南無妙」（写真左）、「南無」（写真右）と書かれた礫石経

発掘期間中は、ご協力のほどよろしくお願
いいたします。

次号には、昨年度礫石経塚が発見された、
ふじ塚遺跡の東側部分の調査成果を掲載した
いと考えています。

ふじ塚遺跡 発掘たより 第3号

発行日：令和3年6月24日

担当者：長谷川・河西・綿田

長野県埋蔵文化財センター

TEL：026-293-5926